

熱傷(やけど)について

熱傷は熱によってタンパク質が変性する、細胞が死ぬことによって起こります。熱い鉄の棒が刺さったなどの特殊な場合を除いて、熱源はほとんどの場合体の外にあるので皮膚や粘膜の表面から深いほうへ向かって熱傷は広がっていきます。温度が高いほど、接触時間が長いほど、熱傷は深くなる傾向があります。また極端に温度が高ければ短時間(秒単位)でも深くなり、逆に50—60度くらいの温度でも長時間なら(数時間)深い熱傷を負うこととなります。後者は低温熱傷と呼ばれ湯たんぽやファンヒーターの近くにいて脚をやけどする人などがそれに当たります。

熱傷は深さで、1度(皮膚の発赤)、2度浅(水疱ができる)、

2度深(水疱の下が白くなる)、3度(皮膚は少なくとも全層で死んでしまう)

などと分けられますが、面積と深さで重症度が決まります。また傷害を受けた細胞から生じた物質がさらに周囲の細胞を傷害するような化学反応も起こります。



初期に水で冷やすなどの処置は局所の温度を下げると同時に有害な化学反応を抑えるのに有効です(ただし面積の広い深い熱傷のときは早く3次救急医療機関や熱傷の専門病院などで治療を受けなければならないので救急車を呼んでください)。

深さは表面から見るしかないので、明らかに受傷直後に3度とわかるようなひどい熱傷以外は数日間見てみないと正しい判断ができないことがあります。もちろん跡が残るかどうかというのはとても気になると思います。しかしどんなに早期から適切な治療を受けても熱源の温度と接触時間、本人の体質などによっては跡が残ってしまう場合があります。とはいえ早めに診察し長く治療することによっていくらかでも“まし”になるように努力していますから通院(必要時は入院)するようにしてください。

熱傷に限らないと思いますが予防に勝る治療はありません。子供の手の届くところに熱源を置かない(ポット、鍋などのほかに炊飯器の蒸気吹き出し口も高温になります)。赤ちゃんの寝ているそばで熱いものを食べたりお湯をポットから注いだりしない。大人の場合は眠るときの低温熱傷に注意してください(石油ファンヒーターの吹き出し口の近くに足を置かない。湯たんぽや行火^{あんか}は布団が温まったら布団から出しておくのがよいと思います)。

熱傷は夏にも意外と多いのですが、これから冬に向かって暖房器具など熱源が身の回りに増えてきますので、予防に気をつけてください。





**診療や相談に役立つがん患者
100の質問**
安達洋祐著(メディカルレビュー社)
がんに対する正しい情報が「Q&A形式」
でわかりやすく解説されています。



あきらめないで！ 関節リウマチ最新版
松野博明著(日本医学出版)
治療ガイドラインや明らかになった最新知
見、社会保障制度が新たに盛り込まれた1
冊です..



「骨」を知る 53の質問
太田博明著(医業ジャーナル社)
骨概論から年代別の骨・カルシウム代謝
に至るまで、詳細な情報がこれ一冊で参
考になります。



**幸せはわたしの中に、そしてあな
たの中に**
南 裕子(ぶどう社)
乳がんの母が自閉症の息子を残していかな
ければならない。残された時をどう生き
て行こうとするのか著者の心がしみる1冊
です。



若年性アルツハイマーの母と生きる
岩佐 まり著(KADOKAWA)
母 50 歳、私 20 歳 ぼけていても大好きな
母を娘一人で働きながら介護する奮闘記で
す。



わが母 最後のたたかい
介護 3000 日の真実
相田 洋著(NHK 出版)
1945 年のあの日「母のたたかい」は始ま
った。壮絶な介護体験の向こうに知られ
ざる戦後史を紡ぐ、渾身のノンフィクション
です。

お勧めの一冊

認知症というとニュースなどでたびたび徘徊や妄想の場面が取り上げられています。あの映像だけみると、認知症に対して恐れを覚えますし自分はこうなりたくないと思ってしまいます。

この本は、実は認知症の人も同じような恐怖、不安の中で日々過ごしているのだということに気づかせてくれます。認知症の人の行動は一見不可解に見えますが、その背景には本人なりの思いがあり、その思いを理解するとなんら可笑しい行動ではないことが分かります。

また、認知症が進むと本人の気持ちがわかりにくくなるため、その気持ちを理解しやすいようにと9つの法則がまとめられています。

私自身、この本から認知症の人の世界を知ることができ、認知症の人への困惑がぐっと減ったと思います。みなさんもぜひ一度読んでみて下さい。

(薬剤科 江川綾子)



【がん相談支援センターからのお知らせ】

毎月1回、患者図書室に於いてがん患者サロン「あづまっぺ」を開催しています。院内の色々な方による“ミニミニ講演”も大好評を得ています。がんに罹られた方やご家族の方、お茶を飲みながら、一緒にお話ししませんか？ 参加予約は不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

☆ミニミニ講演の予定

◇10月28日(水) 「季節性の感染対策 ～インフルエンザと感染性胃腸炎～」
感染管理認定看護師 高橋久美子氏

◇11月24日(火) 「胃がんに関するお話し(仮題)」

内視鏡外科 科長 絹田 俊爾先生
がん相談支援センター 宮下千賀子